



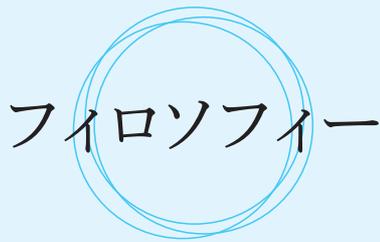
JFA Academy FUKUSHIMA

JFAアカデミー福島

2015

JFAエリートプログラム





常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間を育成する。

日本サッカー協会では、2005年1月1日に、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を実現するために、『JFA2005年宣言』を行いました。その中で、2015年には、登録数500万人、世界でトップ10のチームになる、そして2050年までには日本でのワールドカップの開催と優勝、という明確な目標を設定しました。これらは、単なる日本サッカー協会としての目標ではなく、日本全国の皆さんと双方向で交わされた約束という形で宣言されました。

私たちは、現代の日本であまり使用されることのない「エリート」という言葉を使っています。「エリート」という言葉は日本の中では抵抗感が強く、根付いて来なかった概念であり、誤解を招きやすい面がありますが、本来の意味を重視し、敢えて使用しています。本来、特権階級を指すものではなく、社会の各分野でのリーダーであり、むしろ先頭に立って闘いに行く存在、社会に対する責任を果たす存在を指すものなのです。

私たちはサッカー界で、真の意味でのエリートとなる人材を育てたいと思っています。それがサッカーの場面でも必要とされる判断力やリーダーシップの向上に大いにプラスになると考えていますし、また、サッカー界あるいはそれを越えた社会で将来的にリーダーとなりうる人材を育成したいと考えています。リーダー不在、判断力不足は、現代の日本社会の大きな社会問題であるとも言えます。

サッカーという競技の特徴を把握した上で、子どもの発育発達の特徴を研究し、「長期的視野に立った育成」という観点から、それぞれの年代の特徴に適した最適な環境・指導を与えることが重要です。子どもは小さな大人ではなく、年齢に比例して一直線に成長していくわけでもありません。それぞれの年代にやるべきことをやって最終的な成長へと導いていくことが重要です。これは日本サッカー協会の育成の非常に大きなテーマです。

JFAアカデミーでは「世界トップ10を目指した個の育成」「世界基準を日常に」をキーワードとし、あくまでも個の育成を目的とします。ロジック形式による中高一貫教育により、能力の高い者に良い指導、良い環境を与え、長期的視野に立ち、集中的に育成しています。

また、サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視し、社会をリードしていける真の世界基準の人材、JFAのフィロソフィーでもある、常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成を目的とします。才能を持つだけでは、必ずしも開花するとは限りません。才能を持つ者に良い環境を与え、本人の努力を伴わせることにより、世界に通用する選手を育成します。「世界基準」で日本をリードし、サッカーのみならず、広くスポーツ界、社会全体に発信できる、トータルなリーダーシップをそなえた人材の育成を目指しています。



この5つの言葉の真の意味を自分の言葉で言える「自立した個人」を育成します。

わたしたちには
夢 があります





On the Pitch

トレーニングコンセプト「世界基準の個の育成」

6年間の長期一貫指導教育の中で、年代に即した育成を途切れなく徹底していきます。

U-15

個性を輝かせるための基本となるテクニックの質を高め、サッカーの原理原則を理解し、習慣化し、仲間との関わりの質を高めていきます。

U-18

サッカーのベースを備えた自立した個人であり、チームの中で個性を輝かせることのできる選手を目指します。

テクニカルスタッフ

※過去の経歴・指導歴
(役職、保有ライセンスは2015年3月末現在のものです)

JFA Academy FUKUSHIMA

2

男子



男子サブスクールマスター
中田 康人
JFA 公認 S 級ライセンス
JFA ユース育成サブダイレクター
※ U-16 日本代表コーチ (03, 05)



U-18 トップ監督
真中 幹夫
JFA 公認 S 級ライセンス
※ 横浜 FC トップチームコーチ (07-09)、
フアシアノ岡山トップチームコーチ
(10-14) 兼ネクスト監督 (10-12)



U-18 チャレンジ監督
フェラン・シビラ・ポント
スペインサッカー連盟レベル2、
UEFA A 級ライセンス
カタールニャサッカー協会
(サッカーサービス社より派遣)



U-18 GK コーチ
須永 純
JFA 公認 S 級ライセンス
GK-A 級ライセンス
JFA GK プロジェクト

女子



女子サブスクールマスター
今泉 守正
JFA 公認 S 級ライセンス
※ U-17・U-20 日本女子代表監督 (04-06)
日本女子代表コーチ (04-05)



U-18 監督
木村 リエ
JFA 公認 A 級ライセンス
※ JFA エリートプログラムコーチ (11)



U-15 監督
見汐 翔太
JFA 公認 A 級ライセンス
※ 日本女子代表テクニカルサポート
U-17・U-20 日本女子代表テクニカル
スタッフ (06-13)



コーチ
沖山 雅彦
JFA 公認 S 級ライセンス
※ JFA ナショナルトレセンコーチ (08-09)
ヨルダン女子代表監督 (12-14)



ゲーム環境

男子は、中学生は3カテゴリー、高校生は2カテゴリーの5カテゴリーに分けてトレーニングを行い、試合に参加します。
女子は、中学生と高校生の2カテゴリーに分かれてトレーニングを行い、プレナスチャレンジリーグには1チームで出場します。

参加大会 (予定)

	中学生	高校生
男子	<ul style="list-style-type: none"> ○高円宮杯全日本ユース (U-15) 選手権大会 ○日本クラブユース選手権 (U-15) 大会 ○U-15 東海リーグ 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○高円宮杯U-18プレミアリーグ ○日本クラブユース選手権 (U-18) 大会 ○静岡県U-18リーグ 等
女子	<ul style="list-style-type: none"> ○全日本女子ユース (U-15) 選手権大会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレナスチャレンジリーグ ○皇后杯全日本女子選手権大会 等



U-15 監督

廣山 望 (元日本代表選手)
JFA 公認 A 級ライセンス
The FA International Licence



U-14 監督

船越 優蔵
JFA 公認 A 級ライセンス



U-13 監督

須藤 茂光 (元日本代表)
JFA 公認 S 級ライセンス
※ U-17 日本代表コーチ (01)、
U-16 日本代表監督 (02)



U-15 GK コーチ

加藤 好男 (元日本代表)
JFA 公認 S 級ライセンス
UEFA B ライセンス
FIFA/AFC-GK-インストラクター 他
※ 日本代表 GK コーチ (10) 他



通訳兼アシスタントコーチ

須藤 啓太
JFA 公認 B 級ライセンス
UEFA A ライセンス
スペインサッカー連盟レベル2



GK コーチ

加藤 竜二

JFA 公認 A 級ライセンス・GK-A 級ライセンス
JFA ナショナルトレセンコーチ
※ ロアソン熊本 GK コーチ (06-14)

サッカー サービス社



プロジェクトディレクター

ダヴィッド・エルナンデス・リヘロ

カタルーニャサッカー協会
※ 元副テクニカルディレクター (08-09)
ヨハン・クライフ大学・カタルーニャサッカー連盟
指導者コースコーディネーター (08-10)



プロジェクトディレクター

カルロス・ロマゴサ・ビダル

カタルーニャサッカー協会
※ テクニカルディレクター (08-10)
FCバルセロナカンテラ監督 (97-01)

On the Pitch



海外遠征・研修プログラム



男子		
中学2年生	中学3年生	高校2年生
海外遠征 (アジア)	海外遠征 (ヨーロッパ)	
女子		
中学生	高校1・2年生	
海外遠征 (アメリカ)	海外研修 (ヨーロッパ)	

代表活動



男子		
2014	AFC U-16 選手権	1名
2013	AFC U-19 選手権予選	1名
	AFC U-16 選手権	1名
	AFC U-14 選手権予選	2名
2012	AFC U-19 選手権	1名
2011	FIFA U-17 ワールドカップ (メキシコ)	1名
2010	AFC U-16 選手権	1名
2009	FIFA U-17 ワールドカップ (UAE)	1名

女子		
2014	FIFA U-17 女子ワールドカップ コスタリカ2014	4名
2013	なでしこジャパン	1名
	AFC U-19 女子選手権	5名
	AFC U-16 女子選手権	5名
2012	FIFA U-17 女子ワールドカップ (アゼルバイジャン)	7名
2011	AFC U-19 女子選手権	3名
	AFC U-16 女子選手権	6名
2010	FIFA U-17 女子ワールドカップ (トリニダード・トバゴ)	5名

- ① 2014 AFC U-16 選手権
15 下口 稚葉
- ② FIFA U-17 女子ワールドカップ コスタリカ2014
橋沼 真帆 浅野 菜摘
北川 ひかる 大熊良奈
- ③ なでしこジャパン国際親善試合 ナイジェリア女子代表戦
三宅 史織



メディカル・フィジカルコンディショニングスタッフ

コンディション面では、世界で戦える選手になるためにセルフコンディショニングを基礎として、育成年代に必要な動き作り・体作り（ランニングコーディネーション、コアトレーニング、ファンクショナルトレーニング）を行っています。

■トレーナー(常勤)



岩田 清志



島田 真梨子



松木 仁志



中條 智志

■フィジカルコンディショニングスタッフ

A代表やオリンピック代表にも帯同するアスレティックトレーナーや「JFA フィジカルフィットネスプロジェクト」メンバーも定期的に選手に指導しています。



早川 直樹

JFA フィジカルフィットネスプロジェクト
日本代表コンディショニングコーチ



前田 弘

日本代表アスレティックトレーナー



沼澤 秀雄

JFA フィジカルフィットネスプロジェクト
立教大学コミュニティ福祉学部
スポーツウエルネス学科 教授



小粥 智浩

JFA フィジカルフィットネスプロジェクト
流通経済大学スポーツ健康科学部 准教授



広瀬 統一

JFA フィジカルフィットネスプロジェクト
日本女子代表フィジカルトレーナー
早稲田大学スポーツ科学学術院 教授

■ドクター



加藤 晴康

JFA スポーツ医学委員
日本代表帯同ドクター



土肥 美智子

JFA スポーツ医学委員
JFA アンチ・ドーピング 部会長





Off the Pitch

ボールバソン

時之柵イルミネーション

サッカーは多くの仲間との関わりが必要で、ボール扱いが上手いだけでは良い選手とは言えません。ピッチで起きるさまざまなことに対応し、出てきた問題を自分たちで解決できる、自立した個人に成長していくために、ピッチ外での人間的な教育を重視しています。

学習プログラム

- ▶ 英会話 ▶ 公文式 ▶ 学習サポート
- ▶ 東進ハイスクール在宅受講コース 等

▶ 英会話

世界で活躍できる人材の育成の一環として英会話プログラムを導入しています。少人数制で会話の機会を増やすことにより、海外遠征など他国選手との交流時に活用できるよう取り組んでいます。



▶ 英会話

▶ 公文式学習

一人ひとりの能力に応じた教材による中学生対象の学習プログラムです。主に数学の教科を学習しています。日々の学習時間に「自学自習」形式で取り組み、自ら学習する意欲や集中力を高めます。



▶ 公文式学習

▶ 東進ハイスクール在宅受講コース

学力の向上、さらに大学受験対策としての高校生対象の学習プログラムです。インターネットにより在宅（寮）にて受講することができ、多数の講座から選択する個別カリキュラムにて学習に取り組みます。

■ 総務兼選手管理（常勤）

選手の生活・活動全般をサポートします。

■ メンタルケア

定期的なカウンセリングを行い、選手の生活をサポートします。



堤 葉子



関輪 圭太



小坂 恵理



時實 俊輔



堀野 博幸

早稲田大学 スポーツ科学学術院 准教授
JFA 指導者養成インストラクター



▶ わらじ祭



▶ 茶道



▶ 相撲部屋実習

実習プログラム

- ▶ ロジカルコミュニケーションスキル ▶ ボールパーソン
- ▶ マナーセミナー ▶ 富士清掃登山 ▶ 時之栖イルミネーション作成
- ▶ ASE ▶ 相撲部屋実習 ▶ 茶道 ▶ 労作体験（茶摘み、稲作等）
- ▶ 健康教育 ▶ AED 講習
- ▶ 地域行事参加（サッカー教室開催、わらじ祭、みしまサンバ等） 等

▶ ロジカルコミュニケーションスキル

つくば言語技術教育研究所の講師による「聞く・話す・読む・書く」の言語トレーニングを通して、論理的に組み立てる思考力や分析力、人前で話す能力や議論をするための能力などを身につけます。これは日常での他者との会話に生かすだけでなく、一瞬の判断が求められるサッカーの試合中にも活用できるよう取り組んでいるプログラムです。

▶ マナーセミナー

NPO 法人マナー教育サポート協会の講師より挨拶、言葉遣い、食事、手紙の書き方などを学びながら、マナーの本質とは何かを考え、他者への思いやり、感謝の心を育みます。

▶ ASE (Action Socialization Experience)

一人では解決できない課題を、グループで協力して克服・解決する活動で、協調性や相互理解を育みます。

▶ 労作体験

勤労・忍耐力・奉仕などの道徳的価値の育成を重視した、人間形成を行うプログラムです。稲作や茶摘みなどの労作体験を通して、地域の方々との交流も大切にしています。

▶ ボールパーソン

SAMURAI BLUE やなでしこジャパンなどの日本代表の国際試合で、試合運営をサポートする役割を担います。多くのスタッフの支援により試合が運営されていることを知る、また代表選手を身近に感じることで自分の将来を強く意識するきっかけになります。



▶ ロジカルコミュニケーションスキル



▶ マナーセミナー



▶ ASE



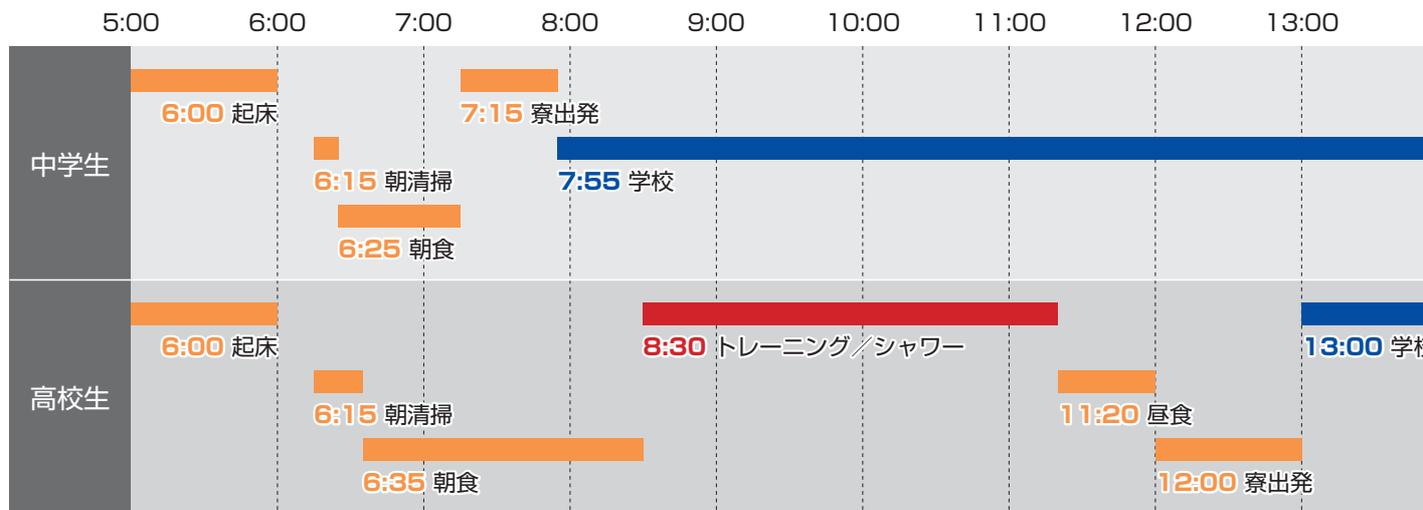
▶ 労作体験

Academy Life



平日基本スケジュール

アカデミーの基本的な生活スケジュールです。



学校教育は、福島県、富岡町、広野町、楢葉町の協力により、6年間の連携型中高一貫教育が行われます。しかし、2011年3月11日の東日本大震災により福島県内での活動が不可能になりました。そのときに私たちが助けてくださったのが御殿場市を始めとする静岡県の皆様です。私たちは2011年4月より一時移転先である「御殿場高原 時之栖」にてロジング（寄宿生活）を行っています。

中学生は、御殿場市立富士岡中学校に通学します。

高校2・3年生は、福島県立富岡高等学校、高校1年生は福島県立ふたば未来学園高等学校（本年4月開校）に籍を置きながら、福島県と静岡県との学校間連携により単位互換が認められ、静岡県立三島長陵高等学校に通学し、授業を受けます。

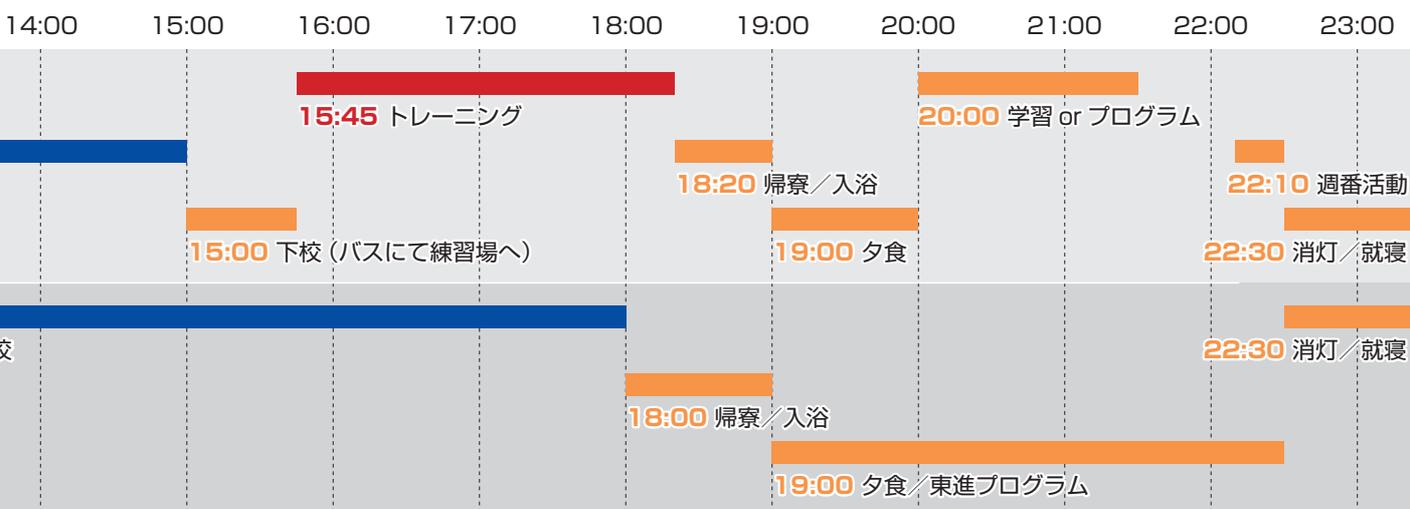




時之栖別館スタッフのみなさん



※男女で差異があります。



進路の見直しについて

6年間の中高一貫による長期的な教育を基本としますが、中学3年間が終了する際に一度、進路に関しての検証を本人・家族・指導者で行います。また、様々な理由により適応が困難な場合は、その都度、選手にとって最良の方法（進路の見直しを含めて）をJFAで判断します。

年間の費用について

活動費に含まれるもの

- ▶ 寮生活に関わる費用、1日2食
(昼食は各自負担)
- ▶ アカデミー活動に係るサッカー用具一式
(ウェア類、スパイク、ランニングシューズ等)
- ▶ JFAが行うプログラム費用
- ▶ 国内大会参加費、遠征費用
- ▶ 海外遠征費用
- ▶ アカデミー活動中における怪我の治療費
(疾病は各自負担)

活動費

6年間にかかるすべての費用のうち、一部を活動費として月額8万円を納入。(別途入学手続き金(20万円)が入学時に必要になります。【参考】初年度費用 計116万円)

減免・救済制度

経済的な理由により、活動費の支払いが困難と認められる家庭に対し、活動費の減免、もしくは救済(活動費の全額を免除)する制度を設けております。

特待制度

入校後、サッカーおよび学業において、優秀な成績を修めている選手に対し、特待制度(活動費の減額)を設けております。

在校生インタビュー

- 1 アカデミーに入校した理由は何ですか？
- 2 どのようにアカデミーのことを知りましたか？
- 3 実際にアカデミーに入ってみてどんな印象がありますか？
- 4 親元を離れての生活はどうですか？
- 5 仲間との生活はどうですか？
- 6 寮内の生活の様子を教えてください。
- 7 寮生活で大変なことは何ですか？
- 8 今、サッカーで一生懸命に取り組んでいることは何ですか？

- 9 サッカー面で成長したこと、トレーニング中に意識していることを教えてください。
- 10 チームとしての目標、その目標を達成するために取り組んでいることを教えてください。
- 11 今年1年のサッカーの目標を教えてください。
- 12 代表での活躍の様子を教えてください。
- 13 将来の目標、夢は何ですか？
- 14 小学生にアカデミーの先輩として一言

橋田 尚希 (中学2年生) [9期生]

山口県出身 / 前所属チーム レオネ山口



- 1 全国からレベルの高い選手が集まる環境でサッカーをして、プロサッカー選手になりたいと思ったからです。
- 2 兄がアカデミーに所属していました。兄の影響でアカデミーのことを知り、入りたいと思いました。兄がアカデミーに入校をした時、僕は小学1年生でした。そのころからアカデミーのことに興味があり、実際に入りたいと思うようになりました。両親も僕の夢を応援してくれて、アカデミーを受験したいと伝えた時は、協力をすると伝えてくれました。
- 4 入校当時は身の回りのことを自分ですることに慣れていなくてとても大変でした。入校して2か月くらい経ち、少しずつ自分から行動をして、洗濯や掃除、身の回りの片づけなどができるようになりました。
- 6 みんなで協力をしながら仲良く生活しています。仲間同士いつも一緒にいるので、けんかをしたり、ぶつかり合うこともあります。グラウンドに出てみんなでサッカーをしているうちに仲直りすることができます。サッカーや生活を通して仲間を大切に思うことができていると思います。
- 8 1つ1つのプレーにこだわりを持って練習をすることです。具体的にはパスの質やファーストタッチのコントロールなど集中して取り組んでいます。また監督の言うことに対して、しっかりと頭の中で理解しながら集中して聞くようにしています。入校した当時の僕は、小学生までのイメージでサッカーをしていて自分がアカデミーでも通用すると思っていました。僕が今までのサッカーを続けている中、周りの選手はどんどん変わっていき、上手くなっていることに僕は気づきました。当時の監督とも話をし、自分が変化しないといけないことを勉強しました。それからスタッフのコーチングに対して、特に集中して聞くようになりました。チームとしては、自分達で課題を見つけ、その課題に対して全員で取り組むことを今は頑張っています。練習や試合の後に監督やコーチに言われたことだけでなく、自分達で課題を見つけるようにしています。僕は積極的に声を出し、チーム全体が良くなるように行動しています。
- 11 チームの目標は、今戦っている、高円宮杯U-15静岡県2部リーグで優勝をし、1部リーグに昇格することです。1試合1試合勝負にこだわりを持って、戦っていきたいと思います。いつも試合の入りが良くないので、僕もしっかりと声を出し集中して試合に取り組んでいきたいです。個人の目標は、ナショナルトレセンのメンバーに入ることです。まだまだ両足を同じ様に使ってプレーをすることが苦手なので、そこを克服していきたいと思います。毎日の練習に集中して取り組んでいきたいです。
- 13 将来の夢は、人を感動させることのできるサッカー選手になることです。見本にしている選手は、シャビ選手です。周りを常に見ながら、冷静にプレーする姿が勉強になります。
- 14 親元を離れて、生活をするのは大変ですが寮生活では、仲間と協力をして取り組むことができ、良いところもたくさんあると思います。アカデミーでは自分の考えをしっかりと持って生活することが大切です。

青木 心 (中学3年生) [8期生]

神奈川県出身 / 前所属チーム 港北SC

2014年 JFAエリートプログラムU-14

2015年 U-15日本代表候補選出



- 1 サッカーだけではなく、寮生活や色々なプログラムがあり、自分を成長させることができると思ったので、受験をしてみようと思いました。
- 2 小学校の時のチームメイトがアカデミーのことを知っていたことがきっかけで僕もアカデミーのことを知りました。挑戦してみようと思い、受験することを決めました。
- 3 もっとサッカー漬けの日々が待っているのかなと思っていました。実際に入校すると、もちろんサッカーも毎日頑張っていますが、学習の時間やテストなどもあり色々なことに取り組む生活です。身の回りのことも自分でしなくてはいけないのでサッカーだけやっていればよいということではないことがわかりました。
- 4 洗濯や掃除、片づけなど自分の事は自分でしなくてはいけないので、親の大変さやありがたみが少しずつわかってきました。自宅から地元の中学校に通い、サッカーをしている生活をしていればわからなかったと思うので、勉強になっています。少しずつ自立できているのかもしれませんが、それでも他の選手も同じだと思いますが、帰省をして寮に帰ってくると、少し寂しい気持ちにもなることもあります。
- 8 他の選手と同じ練習時間の中で、どうやって差をつけていけるのかを考えています。1つ1つのプレーや取り組みを追求し、集中してトレーニングに臨むようにしています。僕はゴールキーパーなので、練習中でも特にキャッチングする際は高い集中力が必要です。理由は1回のキャッチングのミスから失点につながり、試合の結果が変わってしまうからです。また去年、中学3年生のチームに入り、北アイルランドの大会に出場しました。大会の結果以上に同年代の選手との力の差を実感しました。体格や体力の差、スピードの違いなどです。帰国してからは、毎晩体幹トレーニングとストレッチを欠かさず行っています。少しでも外国の選手との差を埋められるように取り組んでいます。今年の海外遠征ではその成果が出るように頑張りたいと思っています。チームとしては今年から参入している、東海リーグでの優勝が目標です。つらい時にこそ頑張れるチームになるとみんなで力を合わせて毎日の練習を頑張っています。
- 13 誰からも信頼されるゴールキーパーになりたいです。Jリーグで活躍し、海外でも通用するゴールキーパーになりたいと思っています。たくさんの優秀なゴールキーパーがいるドイツに行つて、僕もプレーすることが夢です。目標にしている選手は、ノイアー選手、デヘア選手などです。ノイアー選手はすべてにおいて見本になるし、デヘア選手はキックの精度や近距離でのシュートストップがすごいので参考にしています。
- 14 自分の取り組み次第だとは思いますが、大きく成長することができるのがアカデミーだと思います。親元を離れての寮生活で大変なこともありますが、今は自分の成長につながっていると思います。受験をして全国から集まる選手とサッカーをすることで何かわかることもあるかもしれません。挑戦してみてください。

下口 稚葉 (高校2年生) [6期生]

福井県出身 / 前所属チーム 福井市中央FC
2012年 JFAエリートプログラムU-14
2013年 U-15日本代表
2014年 U-16日本代表



- 1 小学6年生の時に、全日本少年サッカー大会に出場しました。その時にアカデミーのことを知り入校したいと思いました。トレセンのコーチや両親の勧めもあり受験することを決めました。また地元にはサッカー面で充実した環境が自宅の近くにはなく、アカデミーの充実した環境の中でサッカーに集中して取り組みたい想いも強くありました。
- 3 レベルの高い選手が集まるセレクションで、合格するのは難しいと思っていました。実際に合格をした時はびっくりしました。入校をしてみて、サッカーだけでなく生活面も充実した日々を過ごしています。地元では味わうことのできない経験をする事ができていると思います。
- 4 入校当時は身の回りのことをすることが大変でした。慣れない生活でストレスもあったと思います。私生活から積極的にコミュニケーションを取るよう、スタッフからの勧めもあり、少しずつ生活にも慣れていきました。親元を離れて感じるのは、今まで両親が自分にたくさんのことをしてきていたということです。両親のありがたみを感じ、日々生活しています。
- 6 同じフロアに中学1年生から高校3年生までが生活しているので、他のカテゴリーの選手ともたくさん交流があります。サッカーだけでなく、学校のことなど色々な話をしています。また今までは自分自身、先輩に頼って行動していた部分もありましたが、学年が上がるにつれて年下の選手のことや、アカデミー全体のこととも考えながら生活ができるようになってきました。
- 8 チームとしては、参入3年目になったプレミアリーグの残留が目標です。自分はセンターバックなので、失点をしない為にどうしたらよいかを考えながら毎日の練習に取り組んでいます。毎試合1点の重みがチームの行方を左右すると思うので、無失点にこだわりたいと思います。
- 12 去年はU-16日本代表にも選出され、W杯のアジア予選も戦いました。レベルの高い選手とスタッフでの日々のトレーニングの成果を出せるように代表では頑張っています。また代表で得た、知識や経験をアカデミーの仲間に戻元できるようにもしています。良い環境で良い仲間とサッカーができておかげで、自分が代表にも選ばれ活躍できていると思っています。
- 13 夢はアカデミー卒業後にプロサッカー選手になることです。将来は海外で活躍のできる選手になりたいと思っています。憧れの選手は、マスケラーノ選手、森重選手、吉田選手などです。ビルドアップや、身長差を補うステップワークなどを参考にしています。

牧野 潤 (高校3年生) [5期生]

岐阜県出身 /
前所属チーム 加納西スポーツ少年団



- 1 同じチームの先輩(3期生)がアカデミーに合格をし、その先輩に憧れてアカデミーに入校したいと思いました。両親も僕の考えを尊重してくれて協力してくれました。周りの人たちや、先輩の親御さんからアカデミーのことを聞き、サッカーだけでなく様々なプログラムにも興味を持ちました。
- 4 僕自身、入校当時は比較的スムーズに生活を始めることができたと思います。中にはホームシックになる選手もいましたが、みんなで声を掛け合いながら克服することもありました。洗濯や服をたたむことは入校まではほとんどしたことがなかったのが始めは戸惑いました。少しずつ慣れて身の回りのことができるようになっていきました。
- 6 全学年の選手と交流があり、色々な話をしながら生活を共にしています。高校1年生くらいまでは、自分の事を中心に考えてしまい周りを見ることができない時もありましたが、今ではチームのキャプテンにもなり、寮内全体のことを考えられるようになってきました。スタッフからも声を掛けてもらい、アカデミーのキャプテンとして日々頑張っています。

- 11 最高学年になり下の学年の選手にもたくさん声を掛けることを意識しています。自分が高校1年生の時に、先輩からアドバイスや指導されたことが今では役に立っています。その経験を伝えたいと思っています。チームとしては先輩達が参入を決めてくれたプレミアリーグで良い成績を残し、後輩達にもこのリーグでプレイしてほしいと思っています。
- 18 目標はプロサッカー選手になることです。今は大学進学を考えていて、大学でサッカーを頑張りたいと思っています。また将来的にはサッカーの指導者にもなりたっていると思うので、大学では指導者になる勉強もしてみたいと思っています。
- 14 アカデミーには充実した環境があります。グラウンドと寮が近いこと、練習後にはすぐに栄養満点の食事を摂ることができます。サッカーの環境も素晴らしいです。アカデミーは自分の取り組み次第でチャンスが大きく広がる環境です。挑戦してみてください。

遠藤 純 (中学3年生) [8期生]

福島県出身 / 前所属チーム
Vamos 福島ホワイトリバーFC
2013年 JFAエリートプログラム女子U-13
2014年 JFAエリートプログラム女子U-14



- 1 プロのサッカー選手になりたいという夢に一歩でも近づけると思ったからです。
- 7 毎日の洗濯です。今まで親に任せきりだったことも、今では自分で自分のことができるようになりました。
- 8 前より、当たり負けしなくなりました。また、足元の技術が高められました。個人で目標を決めてトレーニングに励んでいます。
- 10 全日本女子ユースU-15の全国大会で優勝することです。そのために、体力を上げて、全学年みんなで声を出すこと、チーム内で言い合える環境を作っています。
- 13 などでしてJAPANで活躍することです。そこで自分に自信を持って、自分のプレーを出せるようにしたいです。
- 14 最初は心配事や不安があるかもしれないけど、先輩達がサポートしてくれるので何も心配りません。

橋沼 真帆 (高校3年生) [5期生]

宮城県出身 / 前所属チーム S・K SC
2011年 JFAエリートプログラム女子
2012年 なでしこチャレンジプロジェクトU-15
2013年 U-16日本女子代表
2014年 U-17日本女子代表



- 1 小学校で所属していたチームの先輩が受験していたことがきっかけです。それから、アカデミーのことを調べて、などでしてJAPANに近づける環境だと思ったので受験しました。
- 7 洗濯等、全て自分のことは自分ですることが大変です。親元から離れて生活しているので、寮生活の中で、中学生の頃から自分の事に責任を持つことができています。
- 9 動きながらのパス、コントロールの基礎的な部分が中学生でしっかりと身につきました。高校生になってからは、戦術も学び、個人としても、チームとしてもサッカーの技術が身につけています。トレーニングや試合では、見つけた課題や、スタッフから指摘された課題を改善できるように意識しています。
- 10 チャレンジリーグで1位、皇后杯でベスト4に入ることです。その目標を達成するために、チーム全員でチームを良くしていく雰囲気作りをしています。また、試合後には試合の映像を見て、試合の振り返りや次の試合に向けて選手でミーティングをしています。
- 18 などでしてJAPANに入り、ワールドカップで優勝することです。サッカー一面でも、その他の部分でも、誰からも信頼してもらえる人になりたいです。
- 14 アカデミーでは、サッカー面だけでなく、プログラムや寮生活を通して人間性も成長することができます。まずは、サッカーを楽しんでほしいです。

卒校生の進路先一覧

卒校した選手たちは、次の舞台へと活躍の場を移しています。

(※進路先は卒校時)

男子

- ▶ FC東京
- ▶ ヴァンフォーレ甲府
- ▶ アビスパ福岡
- ▶ レノファ山口
- ▶ ディジョン(フランス)
- ▶ 1860ミュンヘンU-19(ドイツアマチュア)
- ▶ 神奈川大学
- ▶ 順天堂大学
- ▶ 明海大学
- ▶ 京都産業大学
- ▶ 近畿大学
- ▶ 明治大学
- ▶ 国士舘大学
- ▶ 仙台大学
- ▶ 東京メディカルスポーツ専門学校
- ▶ 大分トリニータ
- ▶ 清水エスパルス
- ▶ AC長野パルセイロ
- ▶ モナルカス・モレリアU-20(メキシコ)
- ▶ ボナーSC(ドイツU-19アマチュア)
- ▶ メリーランド大学
- ▶ 東京学芸大学
- ▶ 青山学院大学
- ▶ 中央大学
- ▶ 立教大学
- ▶ 筑波大学
- ▶ 神戸大学
- ▶ 日本体育大学
- ▶ 関西大学
- ▶ ファジアーノ岡山
- ▶ 湘南ベルマーレ
- ▶ 九州共立大学
- ▶ 早稲田大学
- ▶ 同志社大学
- ▶ 高知大学
- ▶ 流通経済大学
- ▶ 桃山学院大学
- ▶ 東京国際大学
- ▶ 新潟経営大学

女子

- ▶ INAC神戸レオネッサ
- ▶ 浦和レッズレディース
- ▶ ノジマステラ神奈川相模原
- ▶ 甲南女子大学
- ▶ 武庫川女子大学
- ▶ 宇都宮大学
- ▶ 筑波大学
- ▶ 大阪体育大学
- ▶ 人間総合科学大学
- ▶ アルビレックス新潟レディース
- ▶ ベガルタ仙台レディース
- ▶ フロリダ州立大学
- ▶ 関東学園大学
- ▶ 慶應義塾大学
- ▶ 産業能率大学
- ▶ 順天堂大学
- ▶ 仙台大学
- ▶ 神奈川大学
- ▶ 日本体育大学
- ▶ 大阪国際大学
- ▶ 早稲田大学
- ▶ 新潟医療福祉大学
- ▶ 吉備国際大学
- ▶ 山梨学院大学



卒校生にインタビュー

(2015年3月卒校)

Q アカデミーで学んだこと

- 生活面では、親のありがたみを感じ、自立することを学びました。身の回りのことをすべて自分でしなくてはいけなかったので大変なこともありました。帰省時に家で過ごしていると家族や親のありがたみを強く感じました。サッカー面ではレベルの高いチームメイトと共に切磋琢磨し、レベルの向上に励みました。高校1年までは怪我が多く、あまり試合には出ることができませんでした。高校3年生でレギュラーになると、チームの為に自分に何ができるのか、周りの為にプレーすることが自然とできるようになりました。【浅見貫太】
- 仲間やスタッフ、多くの人に支えてもらい、仲間の大切さや、支えてくれる人への感謝の気持ちを常に持ち続けることの大切さを身を持って感じました。【森沙也香】
- コミュニケーションスキルなどのプログラムや、普段の寮生活を通して、コミュニケーションの能力や大切さを学びました。【平尾知佳】

Q アカデミーに入って一番成長した部分

- コンディションが良い時や、悪い時でも、いつも同じモチベーションを維持して試合や練習に臨めるようになり、メンタル面で大きく成長したと思います。【平尾知佳】



Q アカデミーでの楽しかった思い出

- 仲間と共に過ごした時間が一番の思い出です。6年間同じ仲間と生活を共にし、サッカーにも全力を注ぎました。楽しかったこと苦しかったことのすべて、仲間と一緒にだったから乗り越えることができました。寮生活やグラウンドでのことすべてが自分にとっての思い出となり、自分を成長させることができました。在校生や新入生には何事にも挑戦し、仲間と乗り越えることができるアカデミー生活を毎日一生懸命取り組んでほしいと思います。【浅見貫太】
- 辛いこと、楽しいこと、何でも共有できる仲間と過ごした寮生活は、毎日が楽しかったです。【平尾知佳】

Q 辛かったこと…それをどう乗り越えたか

- 辛かったことは、大きな怪我をして、長い期間サッカーができなかったことです。長期間のリハビリを通して我慢強さが身につきました。また辛いリハビリの時にも、周りの仲間がたくさん助けられ、最後まであきらめずに頑張ることができました。【森沙也香】

NIKEFOOTBALL 



NIKE.COM/FOOTBALLでさらに詳しく

© 2015 NIKE. All Rights Reserved. Nike Japan 0120-645377

NEYMAR JR



御殿場高原 時之栖

〒412-0033 静岡県御殿場市神山719

■電車・バスでお越しの場合



■マイカーでお越しの場合



公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFAハウス

お問い合わせ先 公益財団法人 日本サッカー協会 JFAアカデミー事務局
 TEL. 03-3830-1890 / FAX. 03-3830-1814
 対応時間帯：祝祭日を除く月曜～金曜 10:00～17:00



▶ www.jfa.jp/youth_development/jfa_academy/fukushima/